

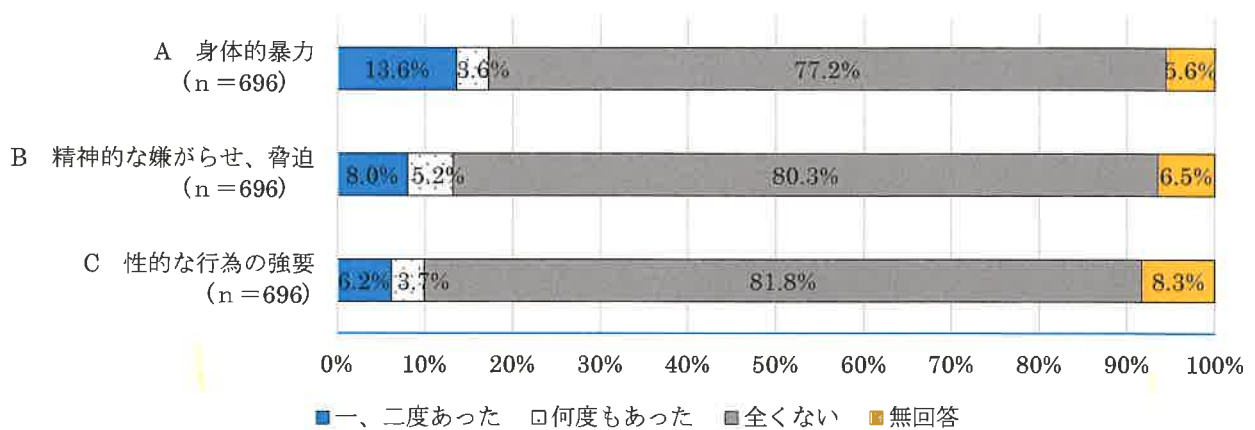
⑥ 男女の人権について

【これまでに結婚したことのある方にお尋ねします。】

問 17 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。(各項目について、1つだけ選択)

配偶者から暴力や嫌がらせなどを受けた経験について、『身体的な暴力』では、「一、二度あった」(13.6%)、「何度もあった」(3.6%)を合わせて17.2%が《あった》と答えている。同様に、『精神的な嫌がらせ、脅迫』では「一、二度あった」(8.0%)、「何度もあった」(5.2%)を合わせて13.2%、『性的な行為の強要』では「一、二度あった」(6.2%)、「何度もあった」(3.7%)を合わせて9.9%が《あった》と答えている。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【総計】



《あった》と答えた割合は、全ての項目において、男性より女性の方が高くなっている。

《あった》(「一、二度あった」 + 「何度もあった」) と答えた割合

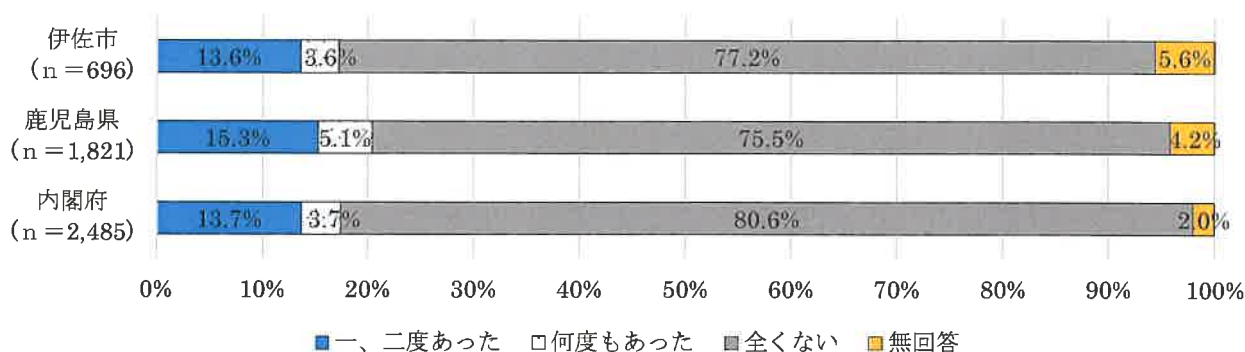
項目	女性	男性	ポイント差
A 身体的暴力	23.0%	10.1%	12.9
B 精神的な嫌がらせ、脅迫	17.8%	7.5%	10.3
C 性的な行為の強要	16.6%	1.6%	15.0

A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

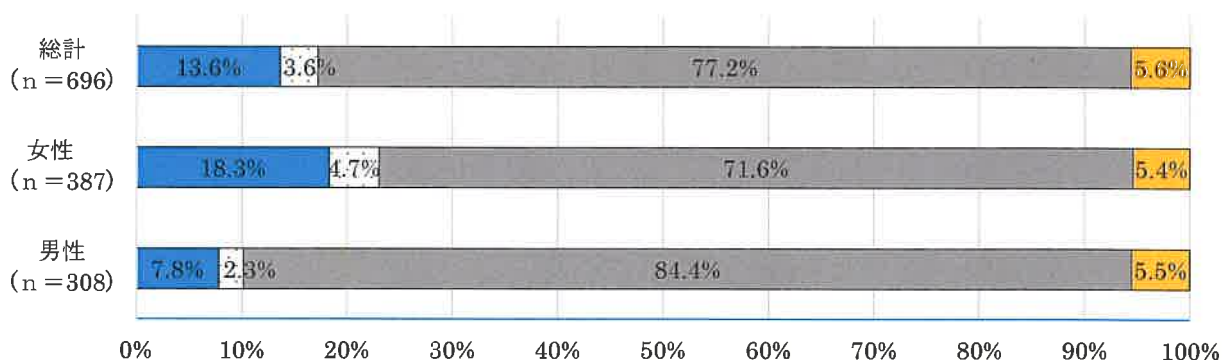
鹿児島県と比較すると、「一、二度あった」、「何度もあった」と答えた割合は、伊佐市の方が、それぞれ1.7ポイント、1.5ポイント低くなっている。

内閣府と比較して、大きな差はみられない。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
県等との比較



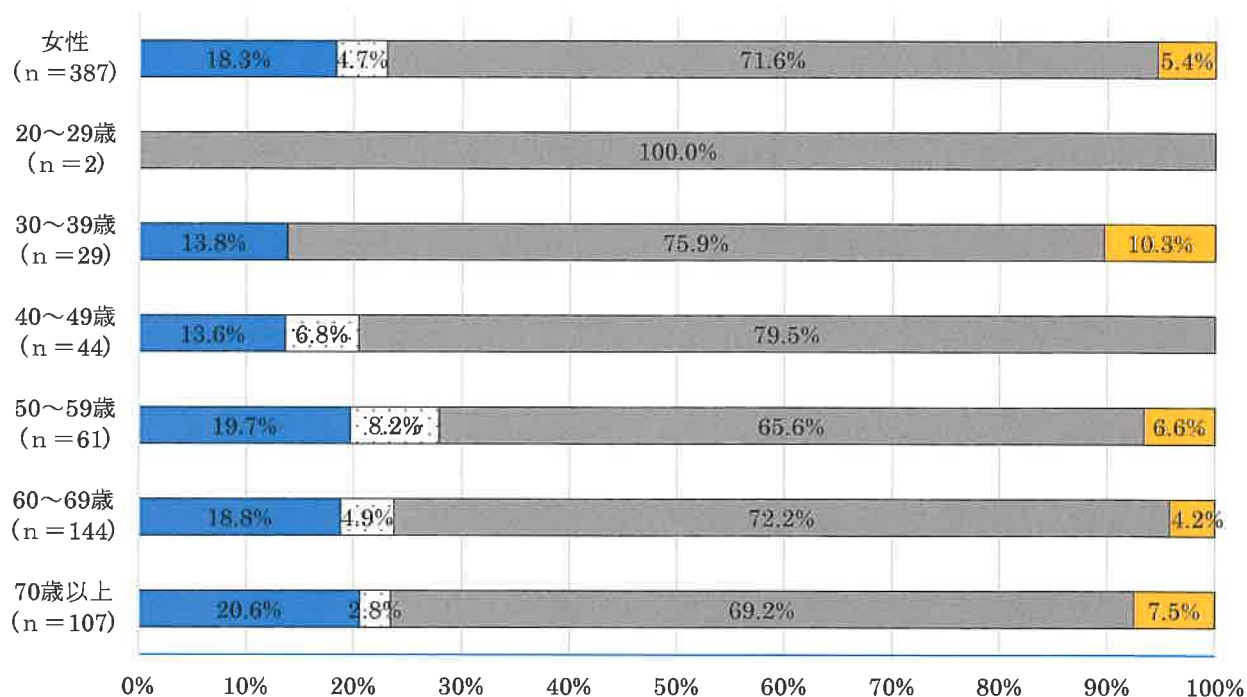
配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】 性別



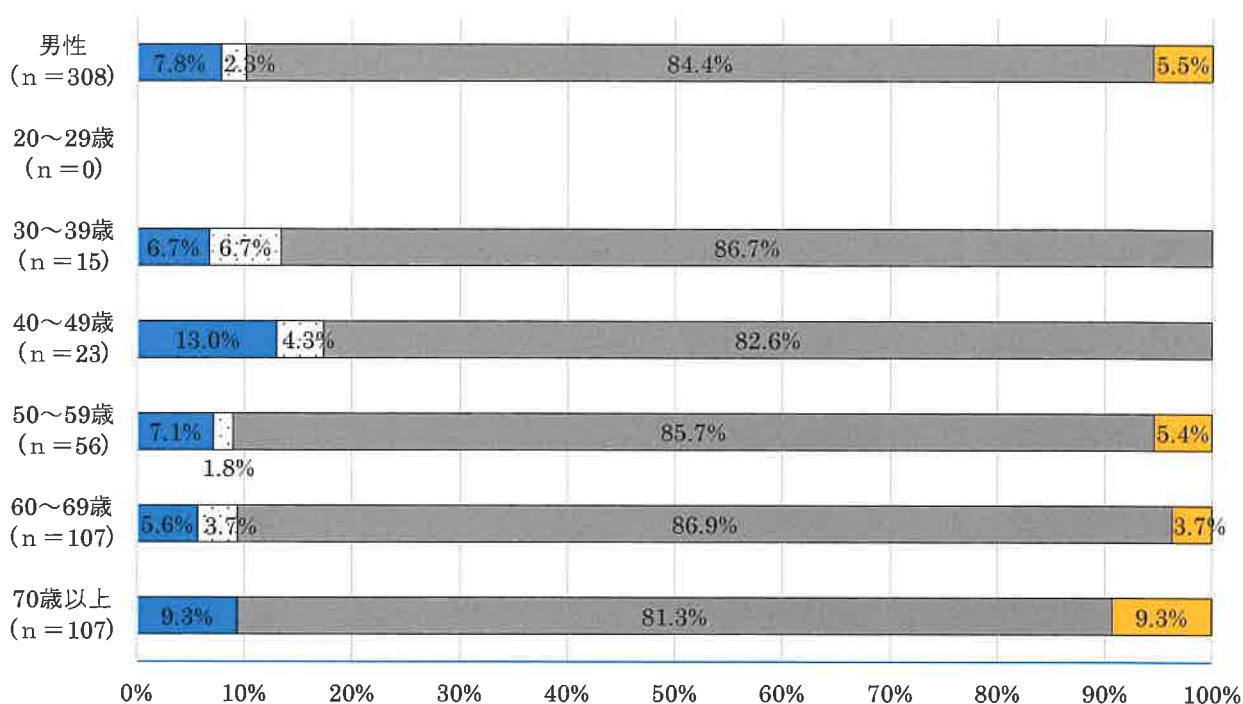
性別で見ると、「一、二度あった」と「何度もあった」を合わせた割合は、女性（18.3%＋4.7%）が男性（7.8%＋2.3%）を12.9ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、50歳代以上の女性では、約2割が「一、二度あった」と答えている。また、男性では、「あった」と答えた割合は、40歳代が約2割となっており、他の年代より高くなっている。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
女性、年代別



配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
男性、年代別

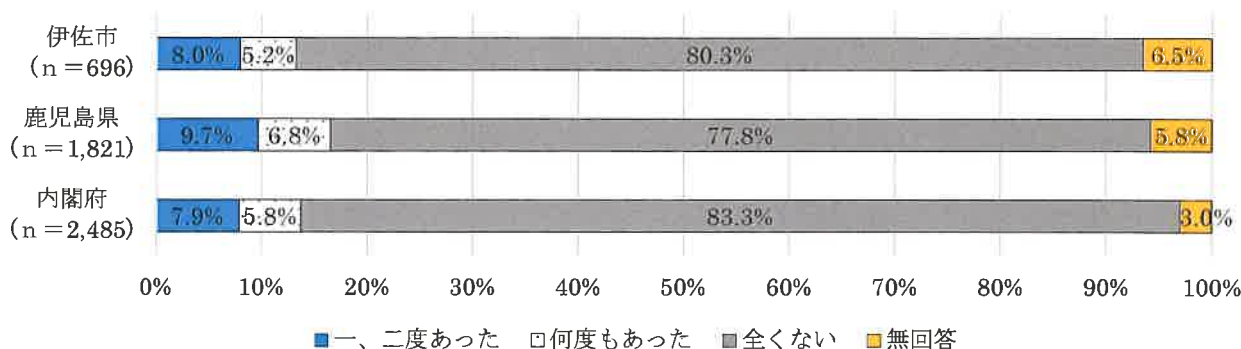


B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、又は、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

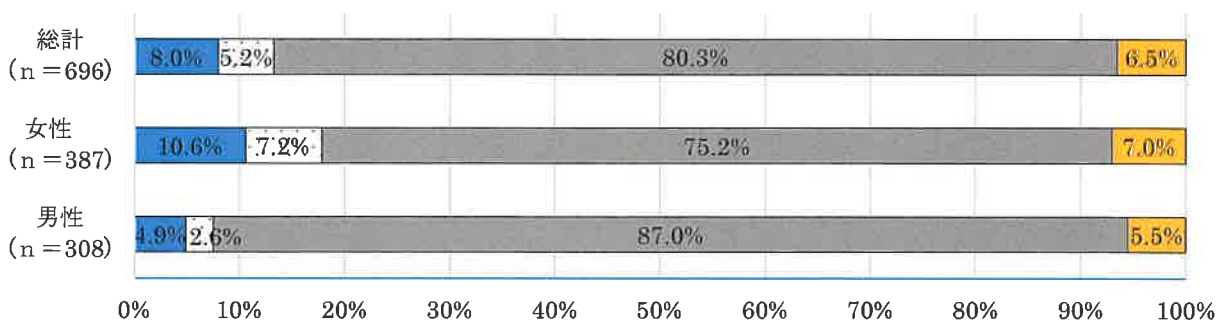
鹿児島県と比較すると、「一、二度あった」、「何度もあった」と答えた割合は、伊佐市の方が、それぞれ1.7ポイント、1.6ポイント低くなっている。

内閣府と比較して、大きな差はみられない。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 県等との比較



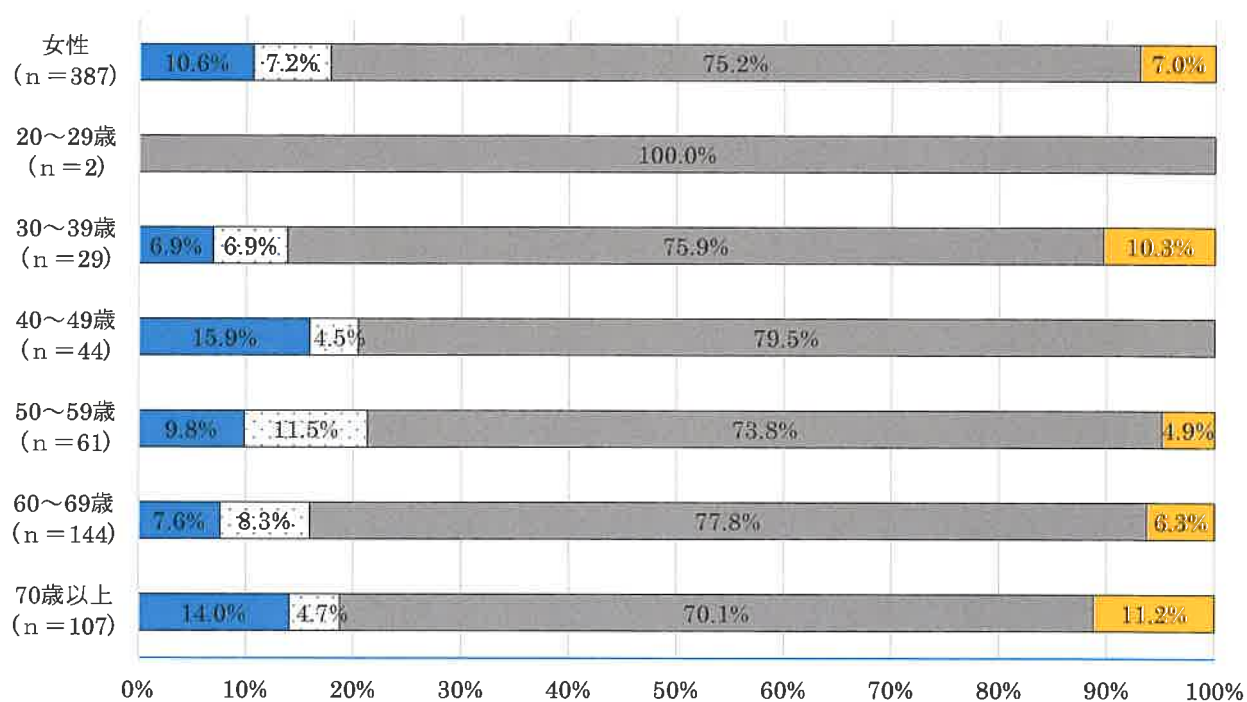
配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 性別



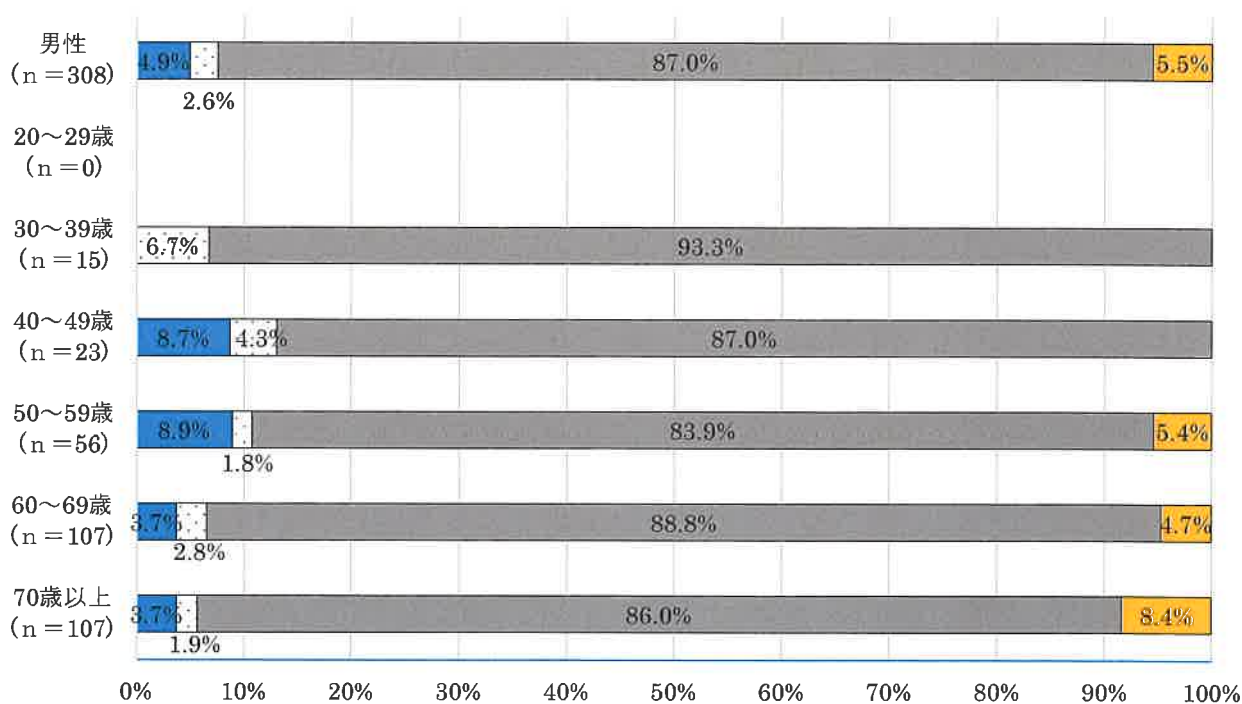
性別で見ると、「一、二度あった」と「何度もあった」を合わせた割合は、女性（10.6%＋7.2%）が男性（4.9%＋2.6%）を10.3ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、40歳代及び50歳代の女性では、約2割が《あった》と答えている。また、男性では、《あった》と答えた割合は、40歳代が13.0%と最も高く、次いで50歳代が10.7%となっており、他の年代より高くなっている。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 女性、年代別



配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 男性、年代別

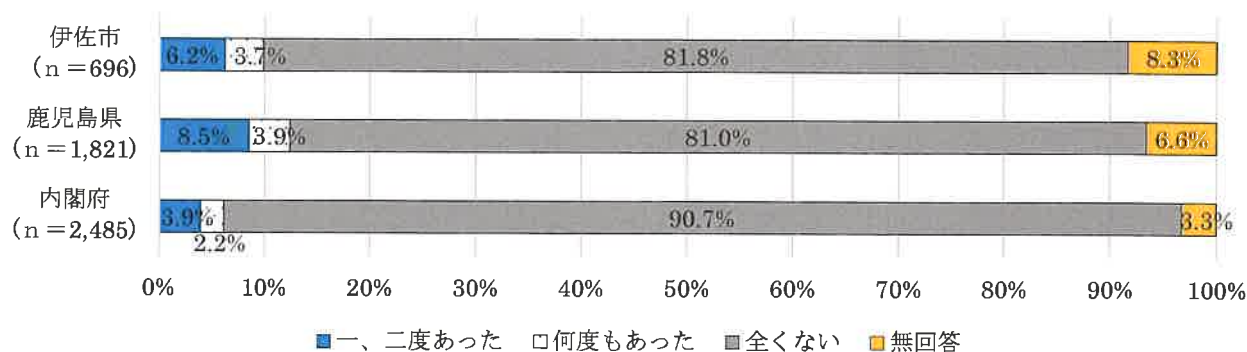


C いやがっているのに性的な行為を強要された

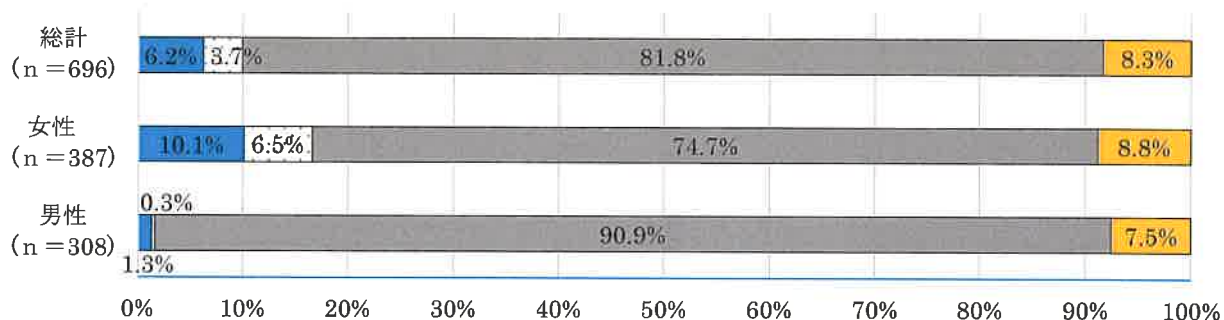
鹿児島県と比較すると、「一、二度あった」と答えた割合は、伊佐市の方が2.3ポイント低くなっている。

内閣府と比較すると、「一、二度あった」、「何度もあった」と答えた割合は、伊佐市の方が、それぞれ2.3ポイント、1.5ポイント高くなっている。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【性的な行為の強要】
県等との比較



配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験 【性的な行為の強要】 性別



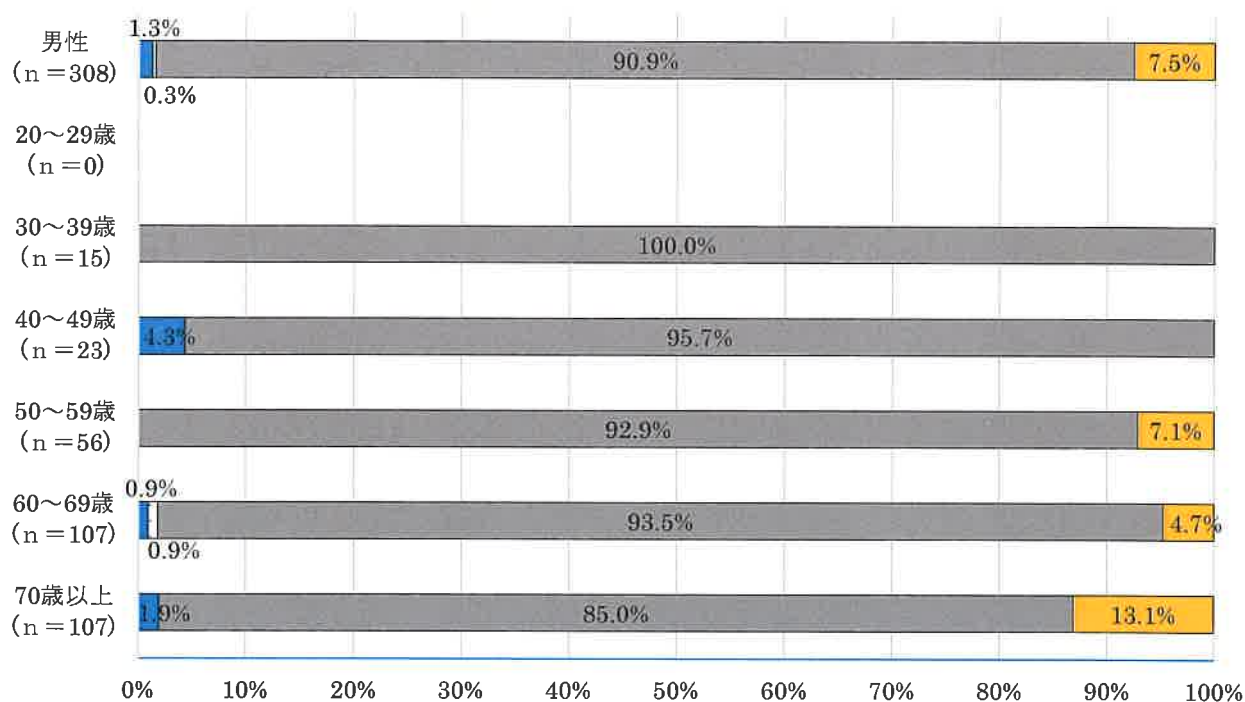
性別で見ると、「一、二度あった」と「何度もあった」を合わせた割合は、女性（10.1%+6.5%）が男性（1.3%+0.3%）を15.0ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、30歳代及び40歳代の女性では、約1割が「一、二度あった」と答えており、40歳代及び50歳代の女性では、約1割が「何度もあった」と答えている。また、30歳代及び50歳代の男性は、暴力を受けた経験が全くないと答えている。

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 女性、年代別



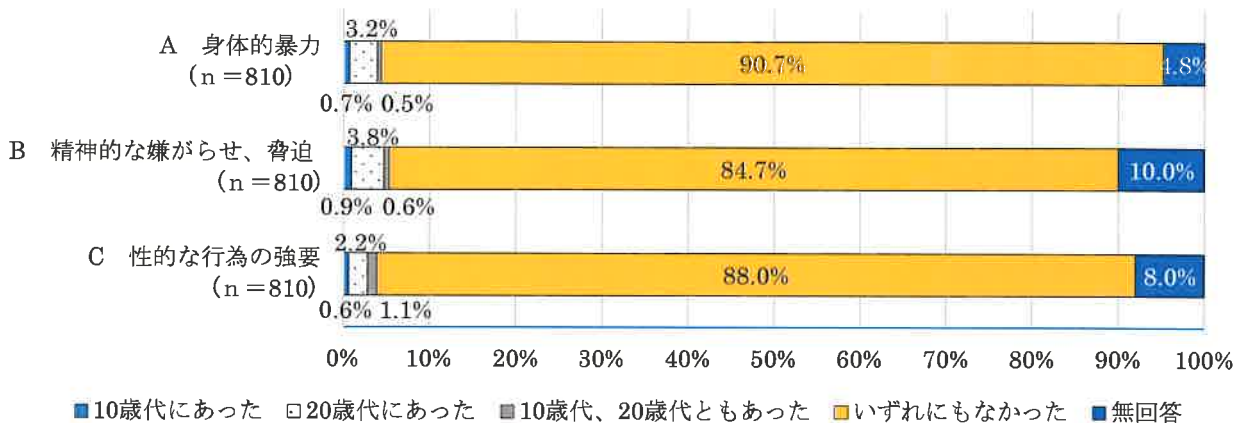
配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 男性、年代別



問 18 あなたは、10歳代又は20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、これまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。(各項目について、1つだけ選択)

交際相手から暴力や嫌がらせなどを受けた経験について、『身体的暴力』では、「10歳代にあった」(0.7%)、「20歳代にあった」(3.2%)、「10歳代、20歳代ともあった」(0.5%)を合わせて4.4%が《あった》と答えている。同様に、『精神的な嫌がらせ、脅迫』では、「10歳代にあった」(0.9%)、「20歳代にあった」(3.8%)、「10歳代、20歳代ともあった」(0.6%)を合わせて5.3%、「性的な行為の強要」では「10歳代にあった」(0.6%)、「20歳代にあった」(2.2%)、「10歳代、20歳代ともあった」(1.1%)を合わせて3.9%が《あった》と答えている。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験 【総計】



《あった》と答えた割合は、全ての項目において、男性より女性の方が高くなっている。

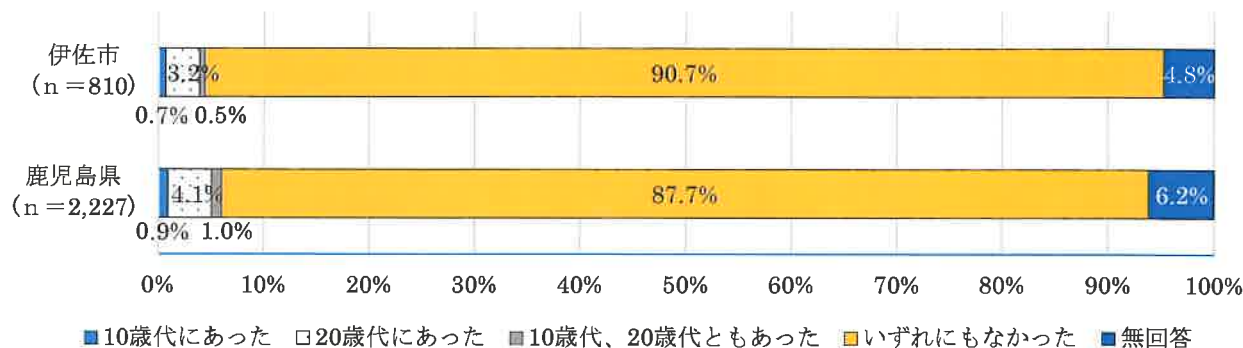
《あった》(「10歳代にあった」+「20歳代にあった」+「10歳代、20歳代ともあった」)と答えた割合

項目	女性	男性	ポイント差
A 身体的暴力	6.4%	2.1%	4.3
B 精神的な嫌がらせ、脅迫	8.2%	1.9%	6.3
C 性的な行為の強要	7.1%	0.3%	6.8

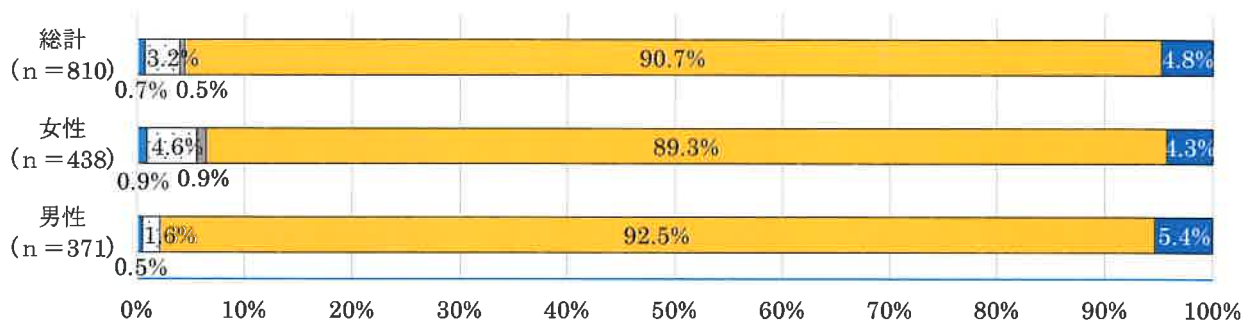
A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

鹿児島県と比較して、大きな差はみられない。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
県との比較



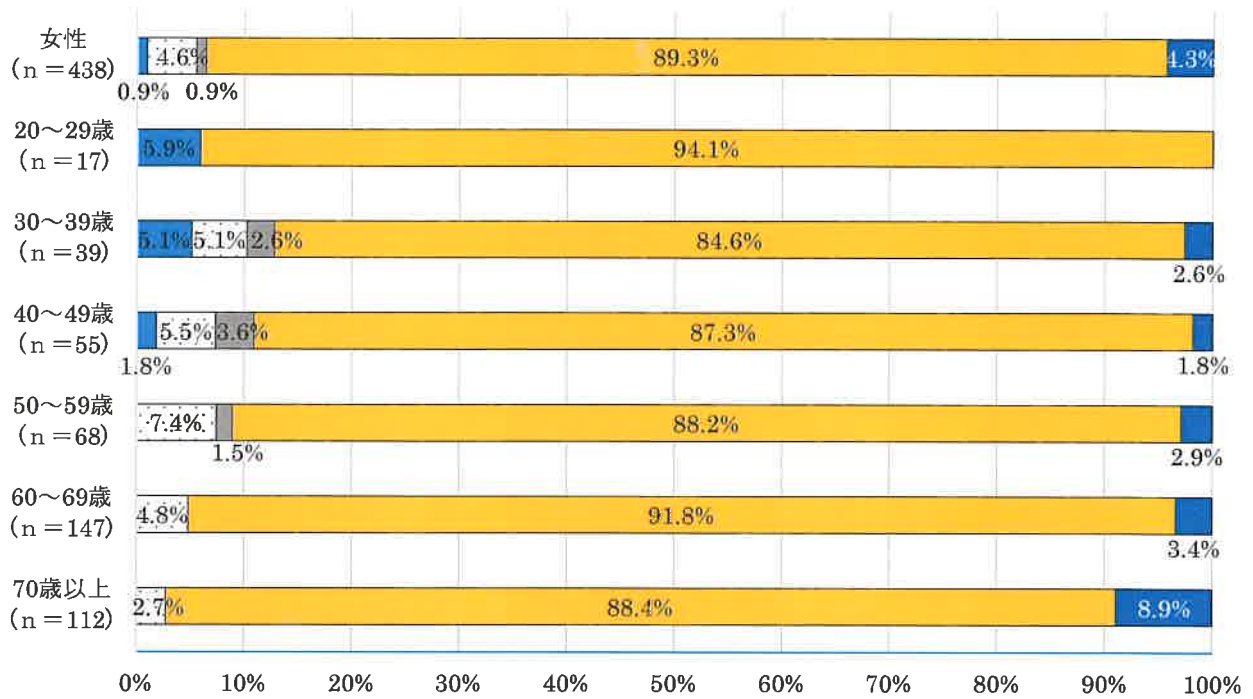
10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
性別



性別で見ると、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、女性6.4%（0.9%+4.6%+0.9%）が男性2.1%（0.5%+1.6%）を4.3ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、30歳代以上の女性では、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、30歳代の12.8%をピークに、年代が上がるにつれて低くなっている。また、20歳代及び50歳代の男性では、「あった」と答えた人はいなかった。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
女性、年代別



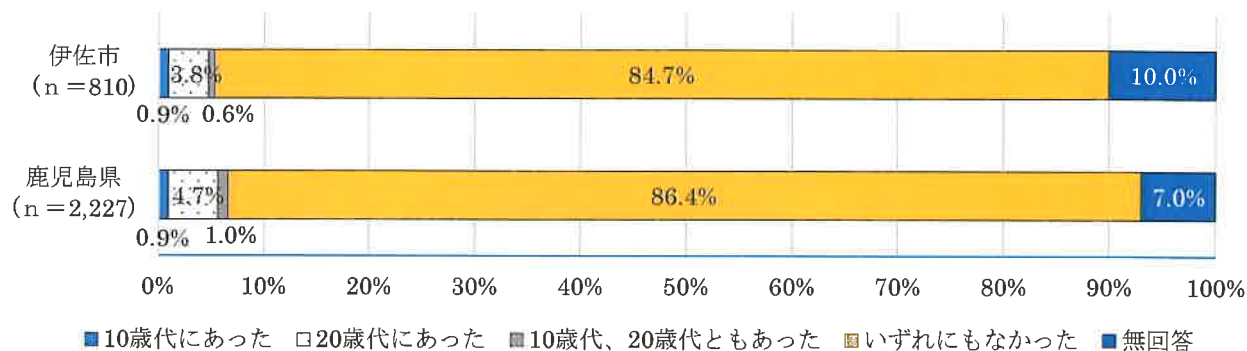
10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験 【身体的暴力】
男性、年代別



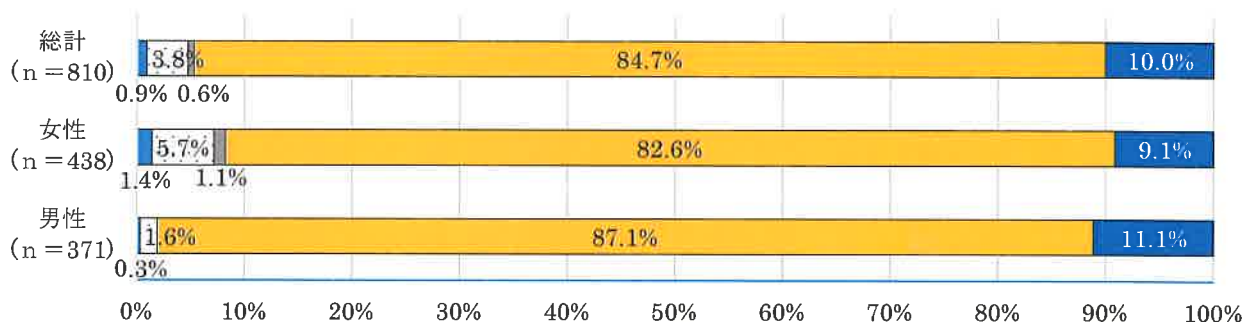
B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、又は、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

鹿児島県と比較して、大きな差はみられない。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 県との比較



10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 性別



性別で見ると、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、女性8.2%（1.4%＋5.7%＋1.1%）が男性1.9%（0.3%＋1.6%）を6.3ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、40歳代の女性では、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、16.3%と最も高くなっており、次いで、30歳代の女性で15.4%となっている。また、20歳代及び60歳代の男性では、「あった」と答えた人はいなかった。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 女性、年代別



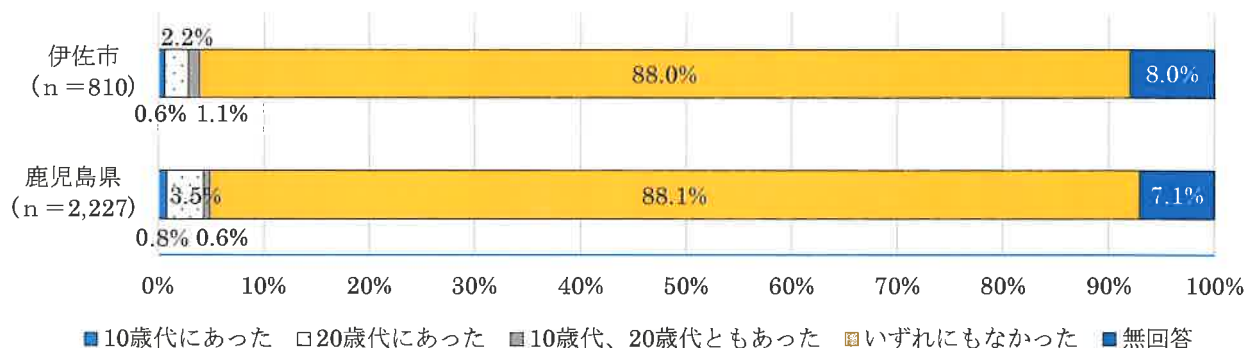
10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【精神的な嫌がらせ、脅迫】 男性、年代別



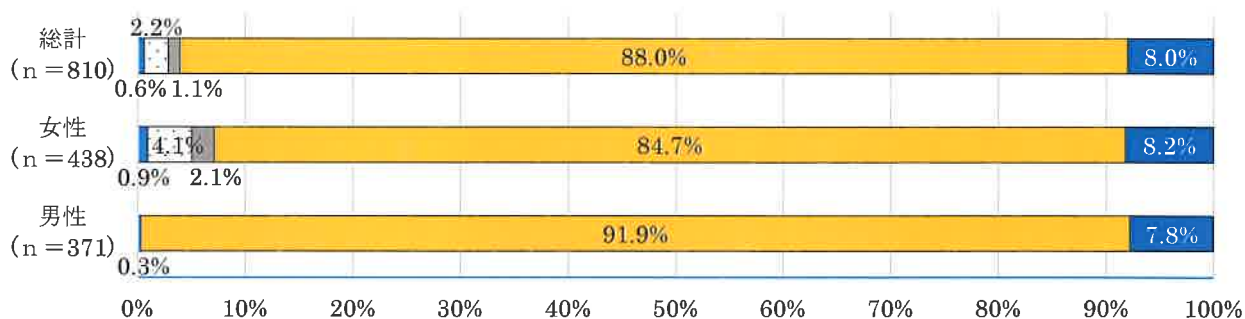
C いやがっているのに性的な行為を強要された

鹿児島県と比較して、大きな差はみられない。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 県との比較



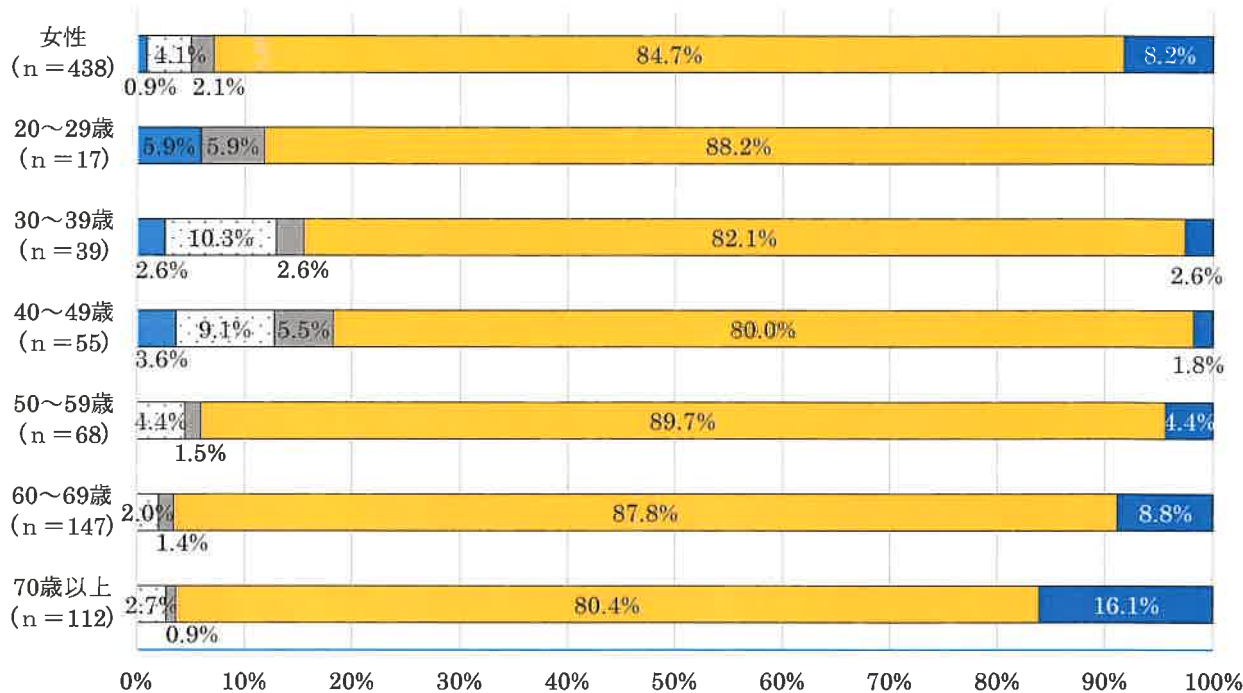
10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 性別



性別で見ると、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、女性が7.1%（0.9%+4.1%+2.1%）となっており、男性は0.3%と、低くなっている。

性別、年代別で見ると、40歳代の女性では、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10歳代、20歳代ともあった」を合わせた割合は、18.2%と最も高くなっており、次いで、30歳代の女性で15.5%となっている。また、男性では、70歳以上が0.9%で、その他の年代では、《あった》と答えた人はいなかった。

10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 女性、年代別



10歳代、20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験
【性的な行為の強要】 男性、年代別



【問 17 又は問 18 で 1 つでも行為を受けたことがあった方にお尋ねします。】

問 19 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

(いくつでも選択)

暴力や嫌がらせについての相談先について、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」(38.4%)と答えた割合が最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」(23.7%)、「無回答」(22.1%)、「友人、知人に相談した」(21.6%)の順となっている。

鹿児島県と比較すると、回答の傾向は同様であるが、「家族や親戚に相談した」と答えた割合は、伊佐市の方が5.6ポイント高くなっている。

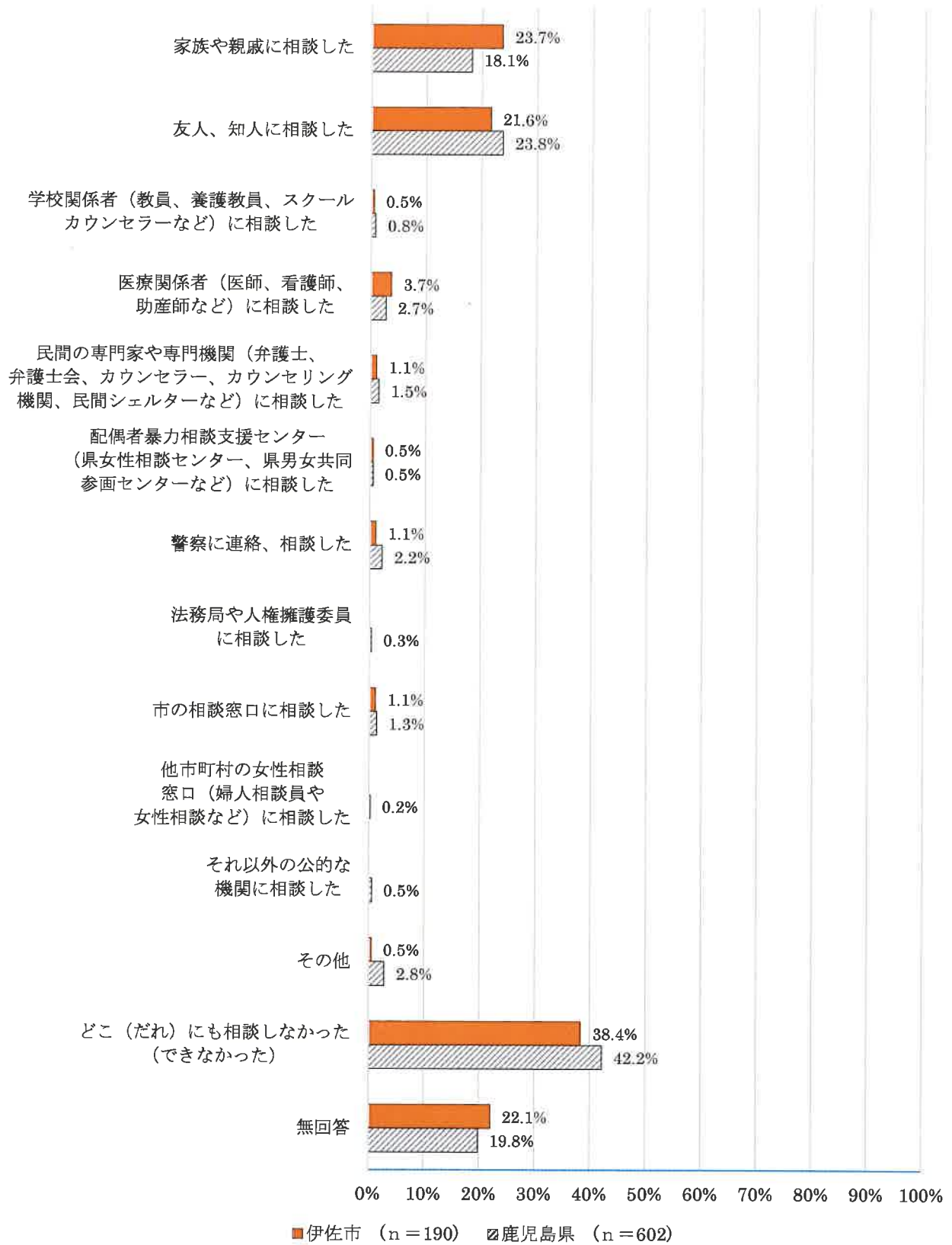
性別で見ると、「家族や親戚に相談した」と答えた割合は、男性(18.8%)より女性(25.0%)の方が6.2ポイント高くなっており、「友人、知人に相談した」と答えた割合は、男性(8.3%)より女性(25.7%)の方が17.4ポイント高くなっている。

性別、年代別で見ると、全ての年代で「友人、知人に相談した」と答えた割合は、女性より男性の方が低い傾向にあり、男性では、「警察に連絡、相談した」と答えた人はいなかった。

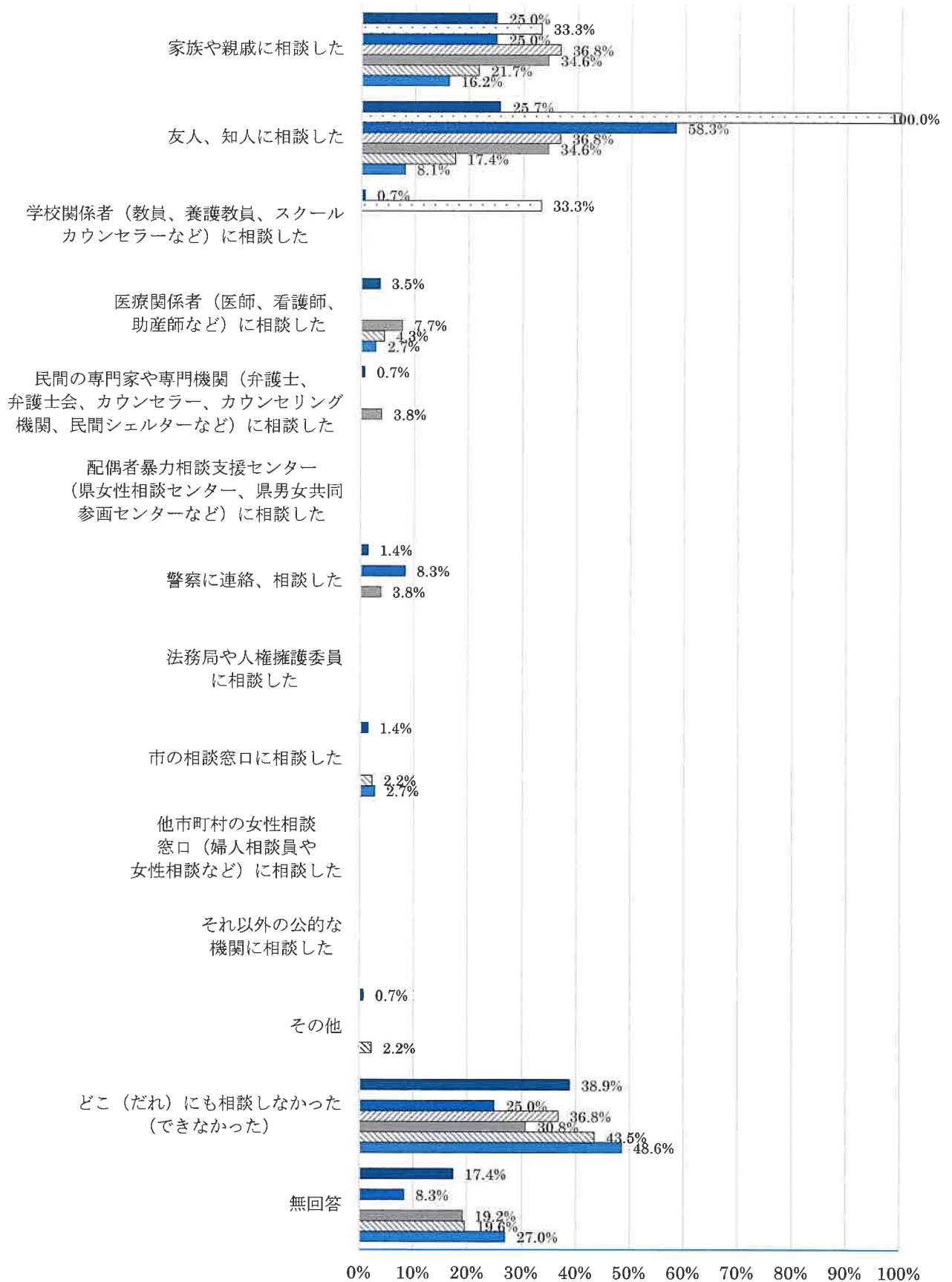
《その他の回答》

- 人混みの中での出来事や、父母に連絡がいく事なども含まれているので、一部で、あかるみになるケースもある。
- 相談するような範囲内の事でもない、軽い事で気にするような事でない。

暴力や嫌がらせについての相談先 【総計】 県との比較

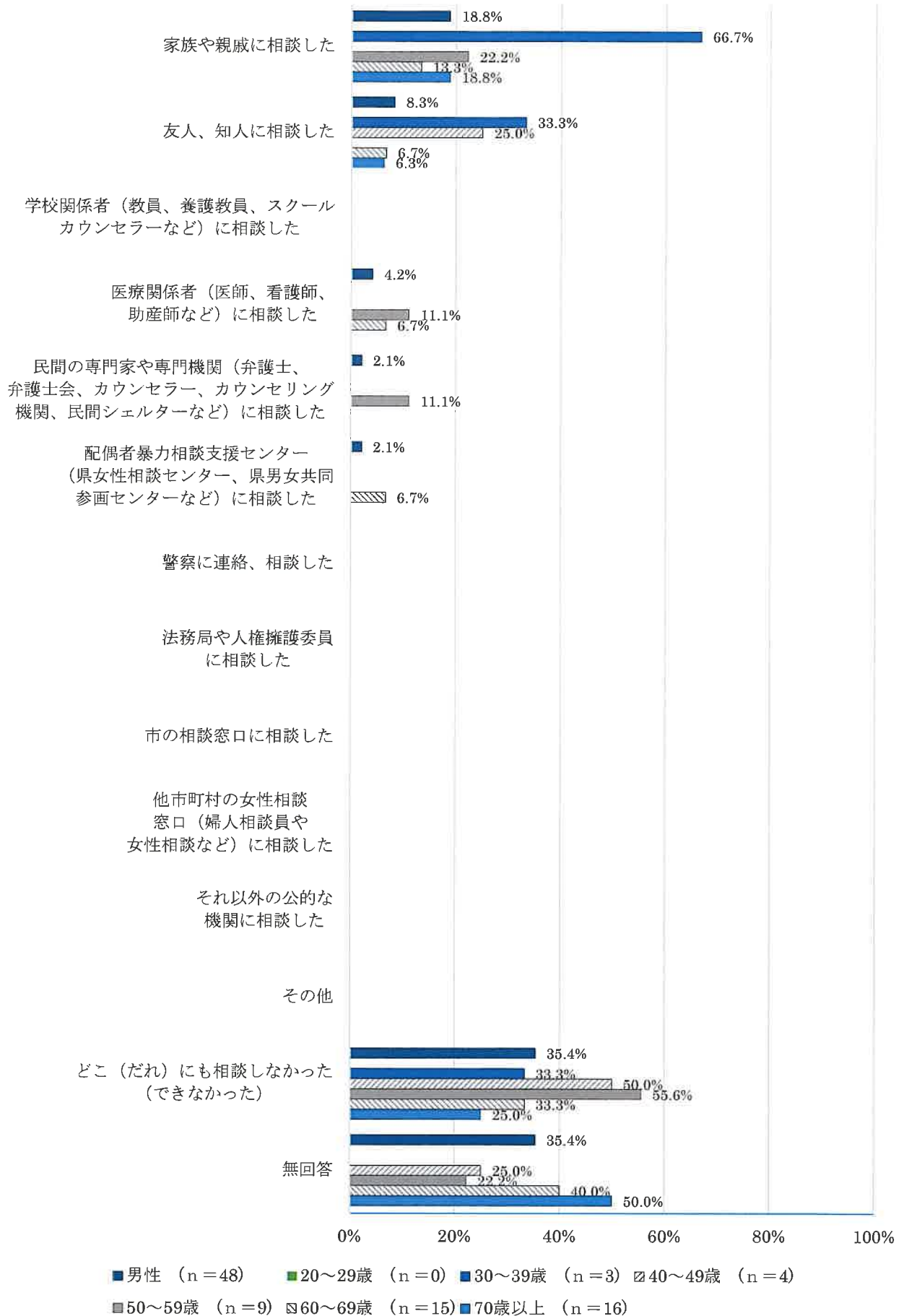


暴力や嫌がらせについての相談先 【女性、年代別】



■女性 (n=144) □20～29歳 (n=3) ■30～39歳 (n=12) ▨40～49歳 (n=19)
 ■50～59歳 (n=26) ▨60～69歳 (n=46) ■70歳以上 (n=37)

暴力や嫌がらせについての相談先 【男性、年代別】



【問 19 で「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかつた）」を選んだ方にお尋ねします。】

問 20 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかつた）のは、なぜですか。（いくつでも選択）

暴力や嫌がらせを受けたとき相談しなかった（できなかつた）理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」（47.9%）と答えた割合が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（30.1%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（17.8%）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」と答えた割合は、伊佐市の方が11.7ポイント高くなっている。

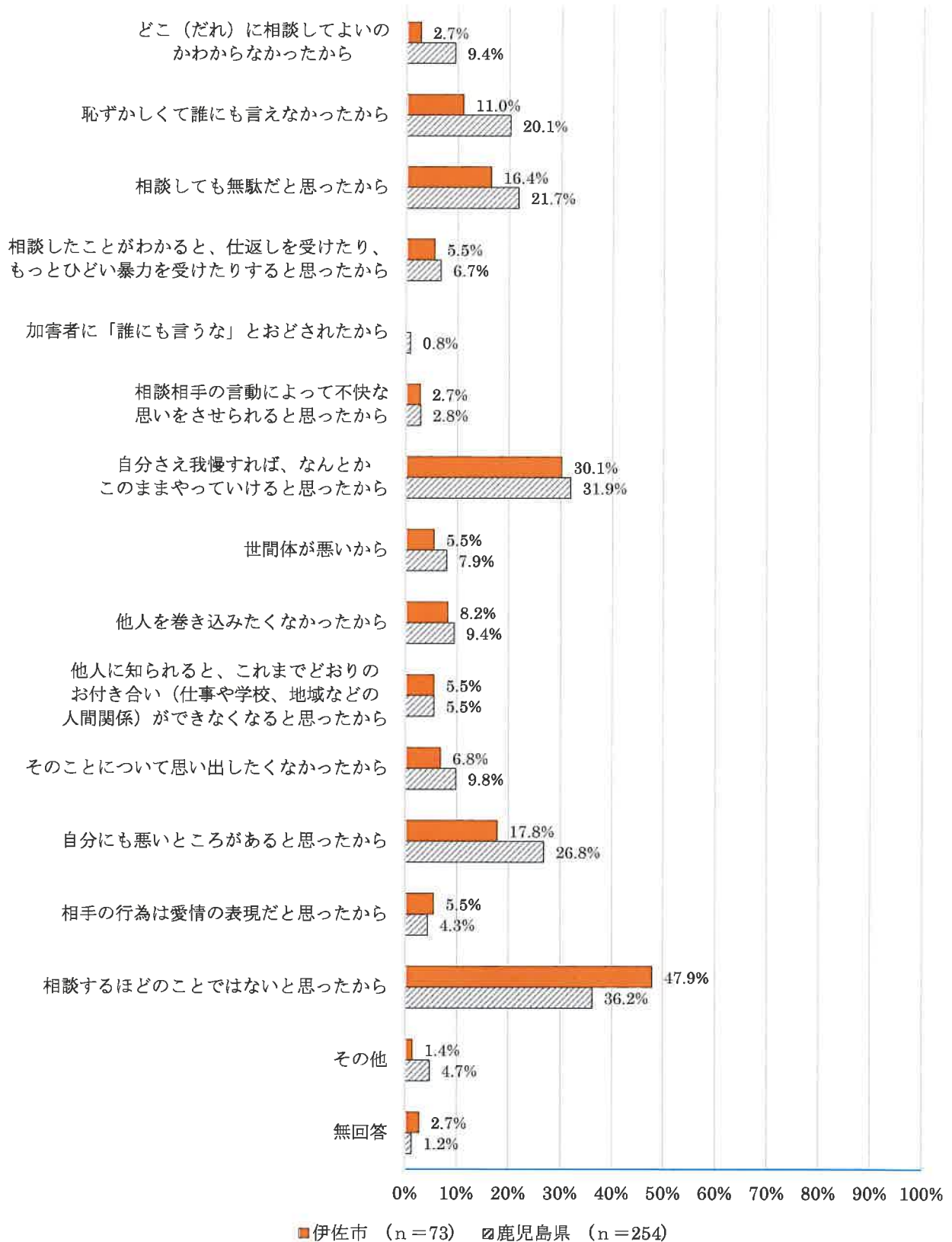
性別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」と答えた割合が、女性（46.4%）、男性（52.9%）と最も高くなっており、次いで、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（女性30.4%、男性29.4%）となっている。

性別、年代別で見ると、回答の傾向にばらつきがあるものの、女性では全ての年代で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と答えた人がおり、男性では全ての年代で「相談するほどのことではないと思ったから」と答えた人がいた。（男女とも20歳代の回答者数は0人）

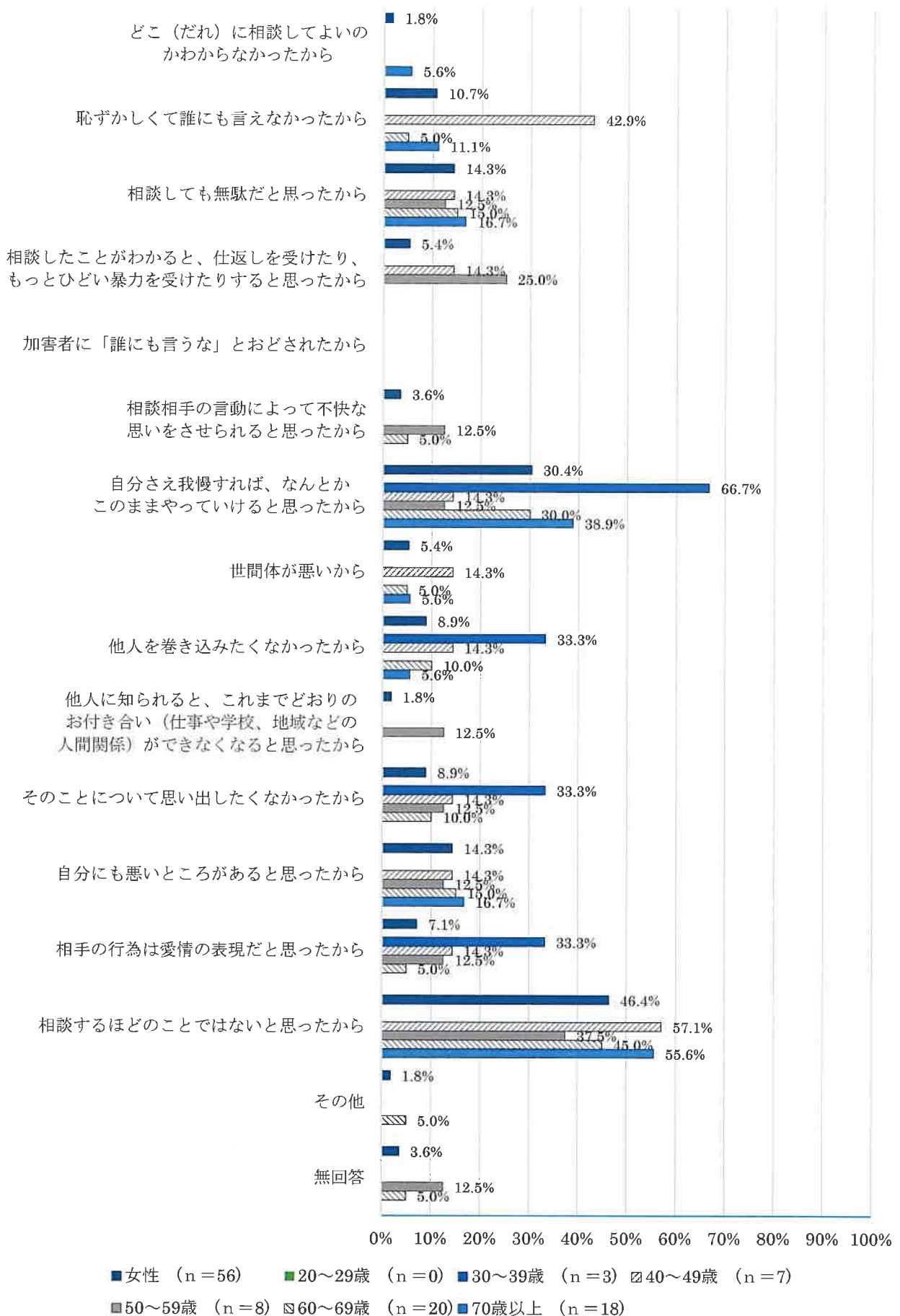
《その他の回答》

- 酒の飲み過ぎでした。

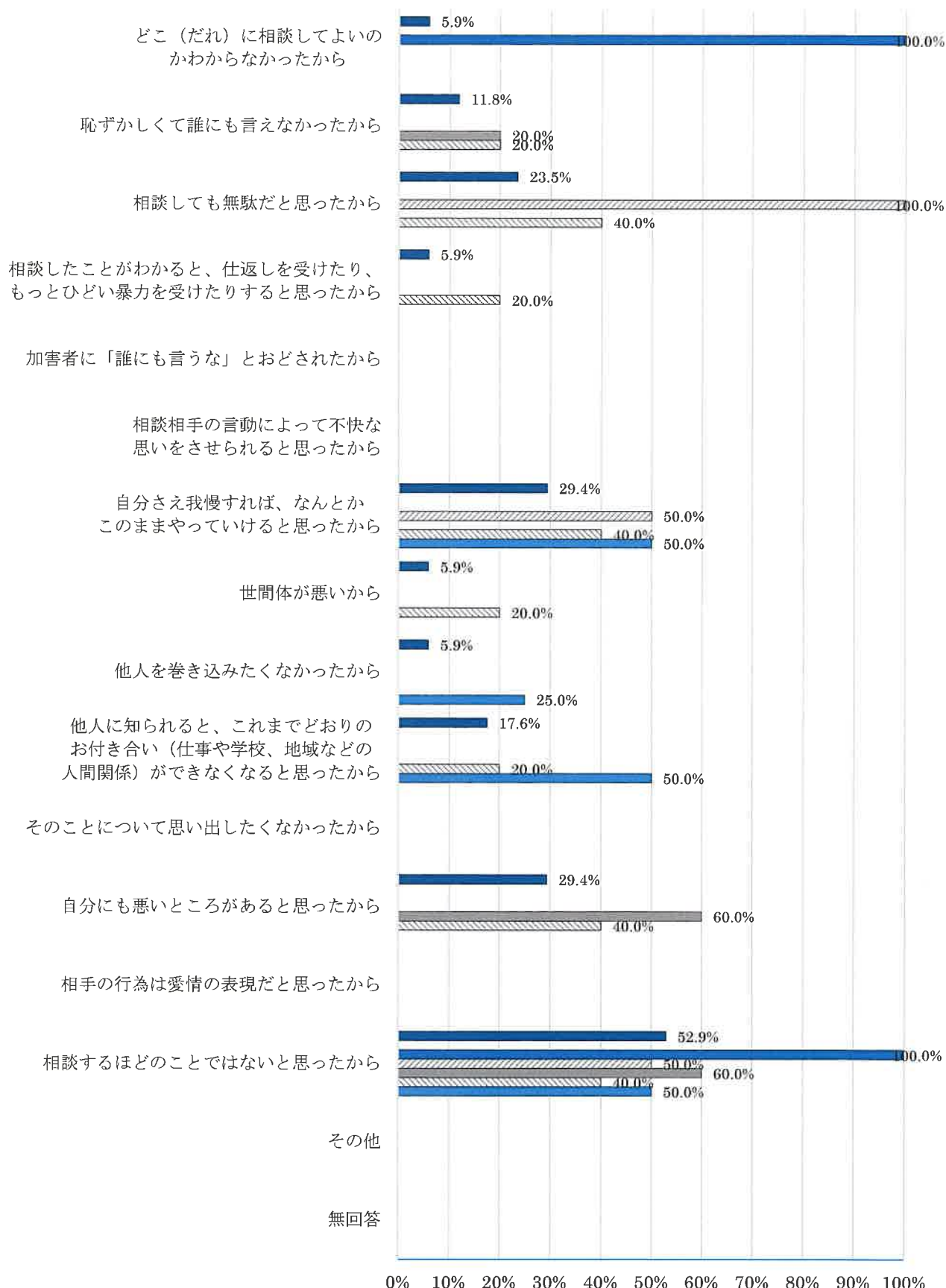
相談しなかった（できなかった）理由 【総計】 県との比較



相談しなかった（できなかった）理由 【女性、年代別】



相談しなかった（できなかった）理由 【男性、年代別】



■男性 (n=17) ■20～29歳 (n=0) ■30～39歳 (n=1) ▨40～49歳 (n=2)
 ■50～59歳 (n=5) ▨60～69歳 (n=5) ■70歳以上 (n=4)

問 21 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも選択)

男女間の暴力防止に必要なことについて、「学校で、児童、生徒、学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」(52.3%)と答えた割合が最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(49.5%)、「家庭で、保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」(39.9%)、「加害者への罰則を強化する」(36.3%)、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(27.9%)の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「学校で、児童、生徒、学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」と答えた割合が、県市とも最も高くなっており、また、「職場などで、性別に由来する人権問題にかかわる啓発を行う」、「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」、「メディアを活用して、広報、啓発活動を積極的に行う」、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と答えた割合は、伊佐市の方が高くなっている。

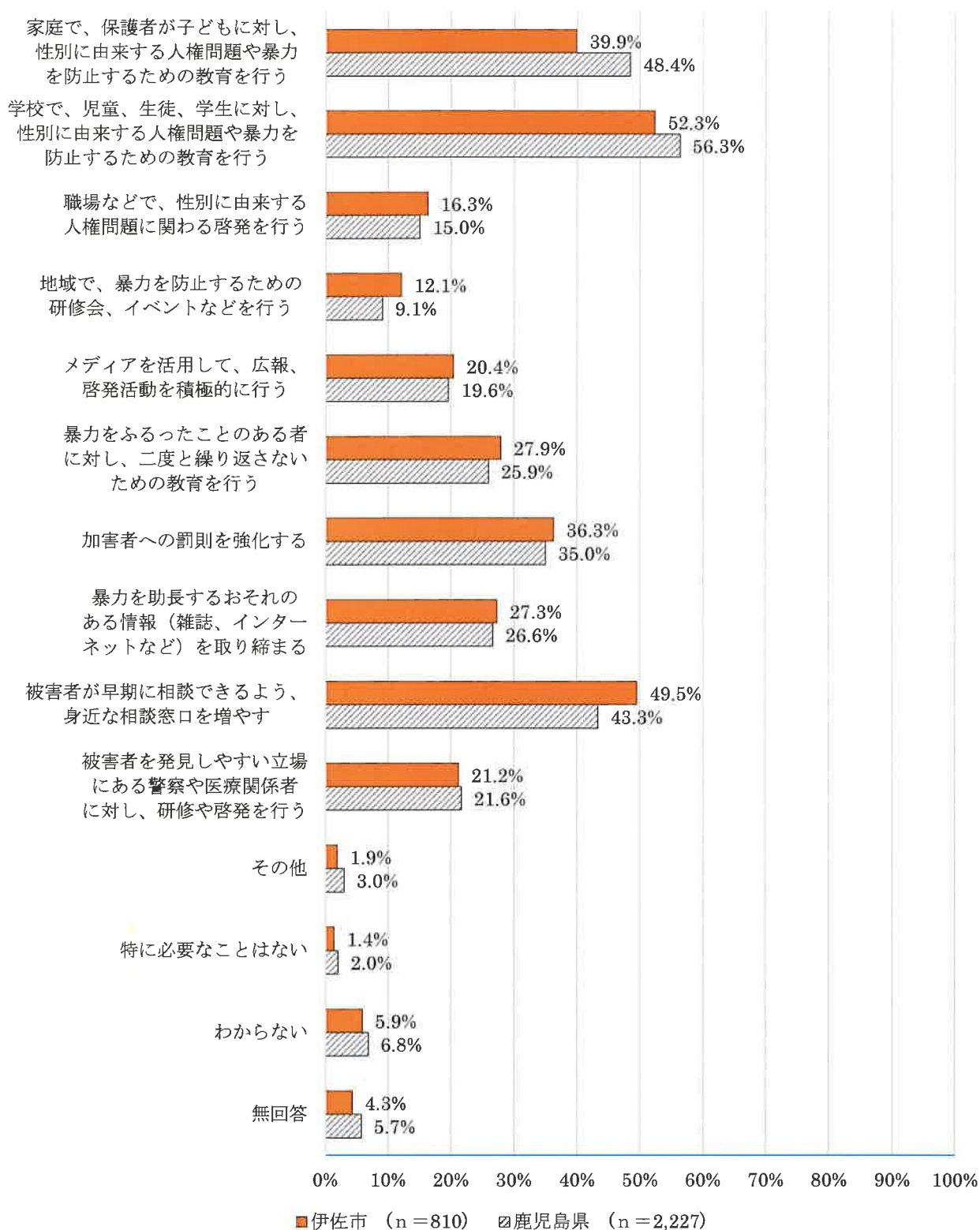
性別で見ると、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(55.9%)と答えた割合が最も高くなっており、男性では「学校で、児童、生徒、学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」(48.8%)と答えた割合が最も高くなっている。

性別、年代別で見ると、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と答えた割合が全ての年代で5割以上となっており、30歳代の男性では、「学校で、児童、生徒、学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」と答えた割合が他の年代より高くなっている。

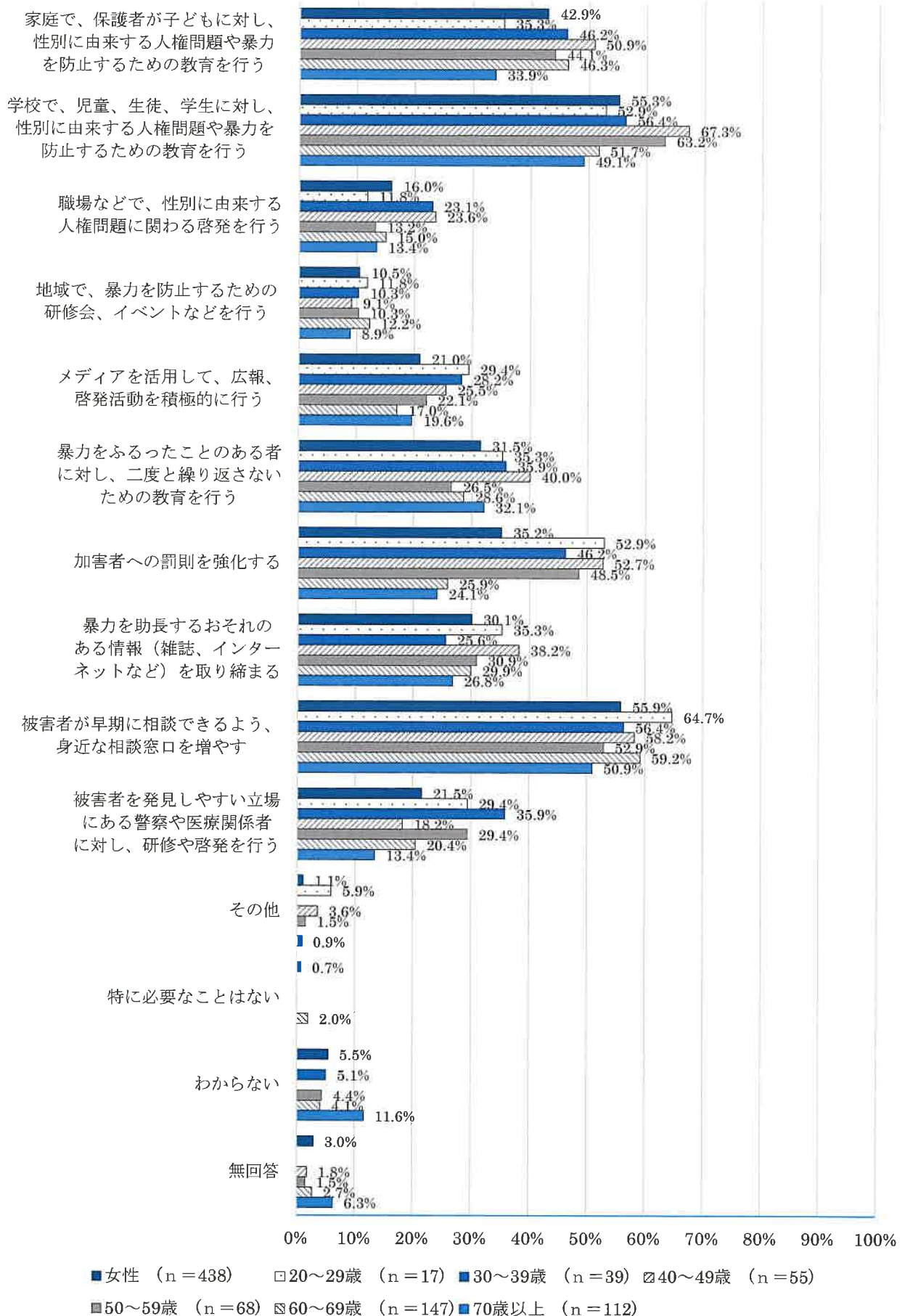
《その他の回答》

- 飲酒による暴力被害を防ぐ、飲酒の規制。事件を起こした人、迷惑をかけた人は、飲酒禁止法律の制定。
- 子供の成長期の家庭(夫婦間)状況が大事である。
- 保護者を教育すべき。
- 相談された側(警察等)が、動くこと。
- 過度の報道を規制する。
- 女性のみ活動とし、男性の考えは不要。
- 精神的余裕を持てる社会を作っていくこと。
- 他人を敬う心、他人も自分と同じように大事な人の子であることを、子供の頃から教育する。
- 教育でこの問題はなくなる。親のしつけと個々の生き方。
- 行き場のない人に安心できる場所。
- 男女間における、危険な状態を作らない。
- “暴力”と当事者たちも、気付いていないかもしれない。具体的な例を上げて、こういう場面は、暴力だと示して教育してほしい。
- 暴力性を持った遺伝子を管理する。
- 教師に、いたづらをされた。こんなことは表に出ないが、気をつけていただきたい。

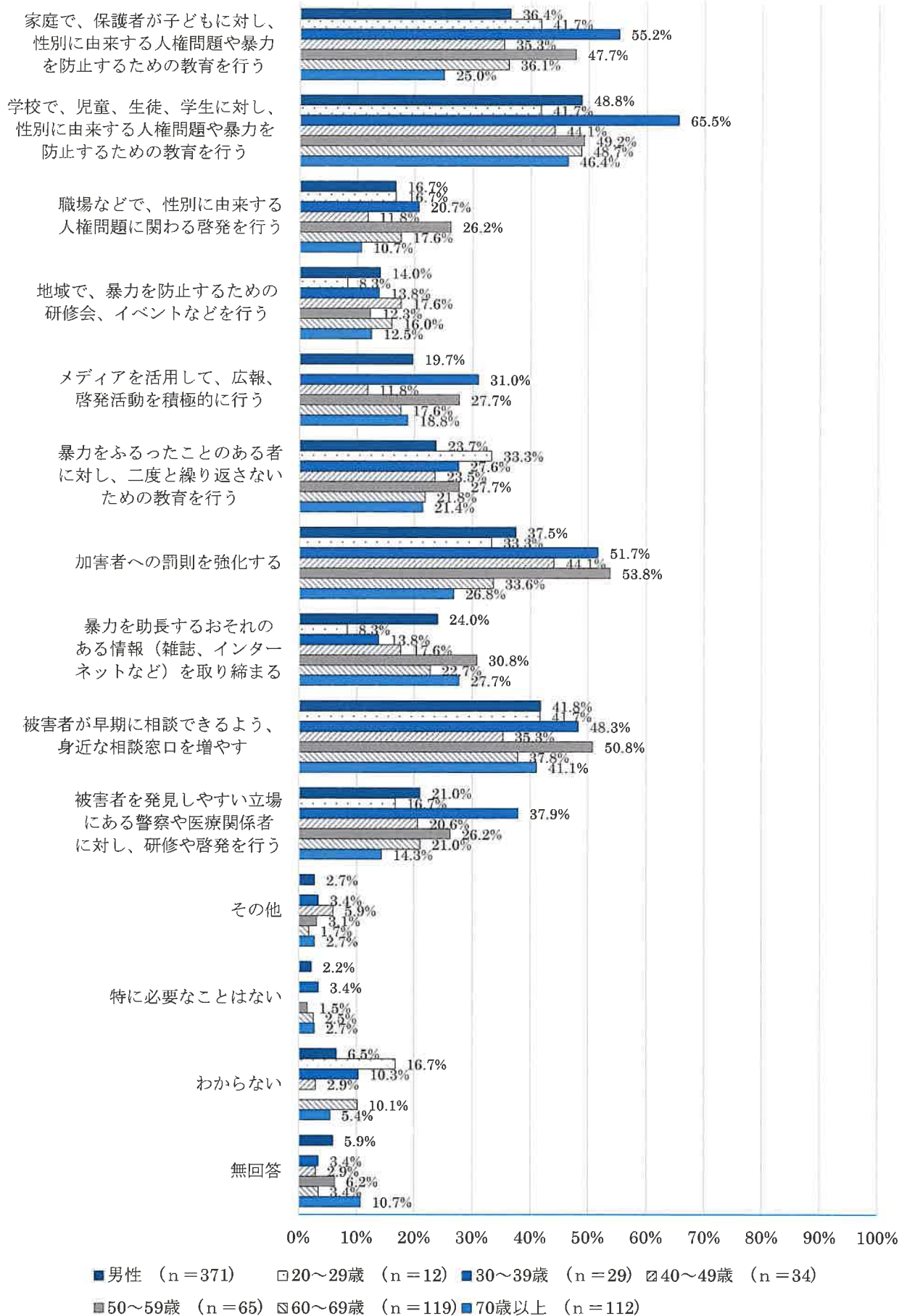
男女間の暴力防止に必要なこと 【総計】 県との比較



男女間の暴力防止に必要なこと 【女性、年代別】



男女間の暴力防止に必要なこと 【男性、年代別】

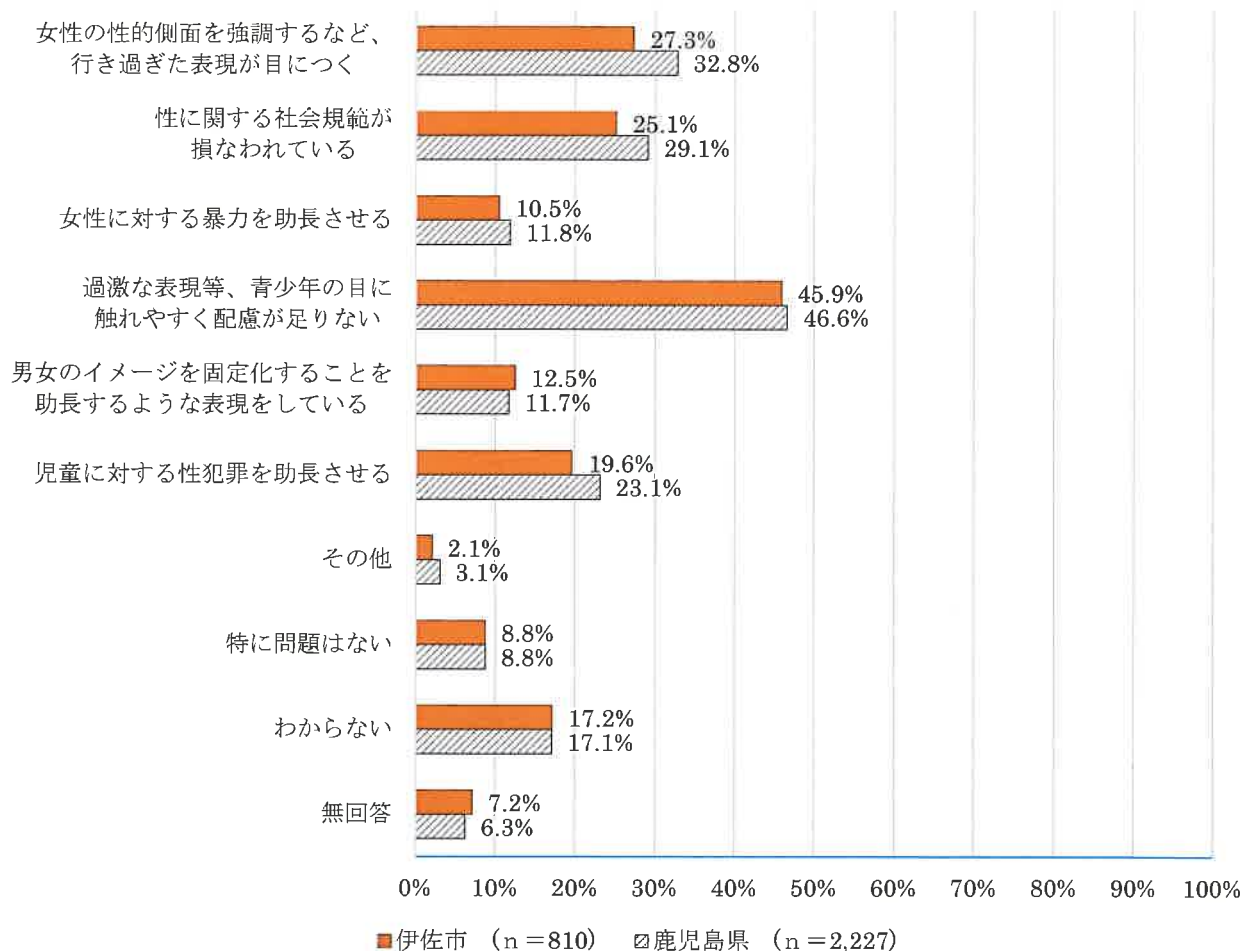


問 22 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性表現、暴力表現について、あなたはどのように考えますか。(いくつでも選択)

メディアにおける性表現、暴力表現について、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(45.9%)と答えた割合が最も高く、次いで「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(27.3%)、「性に関する社会規範が損なわれている」(25.1%)の順となっている。

鹿児島県と比較すると、回答の傾向はおおむね同様であるが、「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」、「性に関する社会規範が損なわれている」と答えた割合は、伊佐市の方がそれぞれ5.5ポイント、4.0ポイント低い結果となっている。

メディアにおける性表現、暴力表現について 【総計】 県との比較



性別で見ると、男女とも「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」と答えた割合が最も高くなっており、女性(48.6%)の方が男性(42.9%)よ

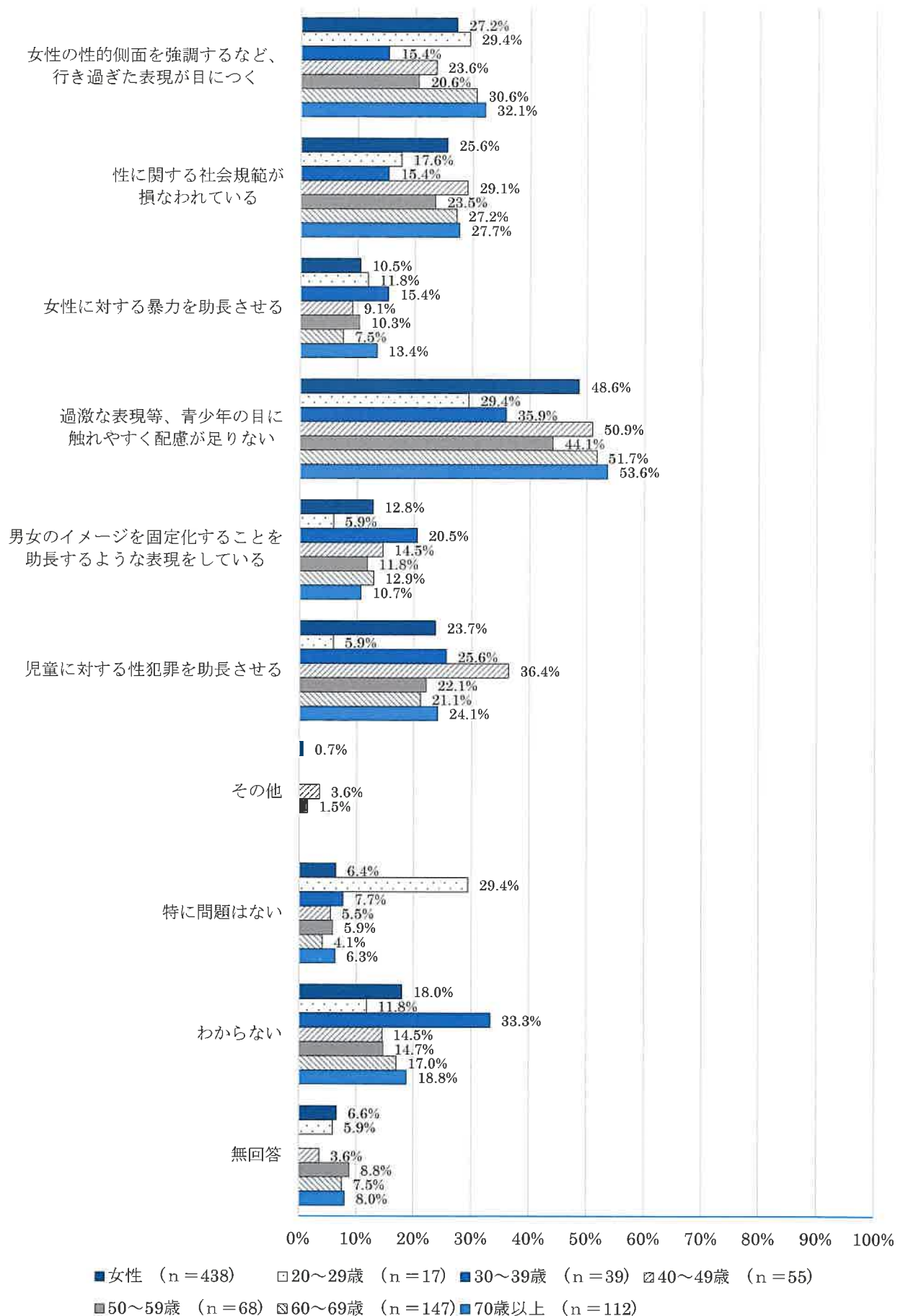
り5.7ポイント高くなっている。また、「児童に対する性犯罪を助長させる」と答えた割合は、女性（23.7%）の方が男性（14.6%）より9.1ポイント高く、「特に問題はない」と答えた割合は、男性（11.6%）の方が女性（6.4%）より5.2ポイント高くなっている。

性別、年代別でみると、40歳以上の女性及び50歳以上の男性で「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」と答えた割合が4割以上となっている。

《その他の回答》

- 表現の自由は、ある程度、制約されるべき。
- 過度に制限することで、逆に全てが悪のイメージとなることには問題があるのでは？
- 近年問題となるような画面が無いと思う。
- 規制が強化された。
- マスコミ操作を感じる。
- メディアがマイノリティーに対して、気にしすぎ、ある程度は、やっていいと思う。
- 変に隠そうとし過ぎてしまい、かえって、性表現、暴力表現がされている。
- 情報が多過ぎて、手近で恐いです。
- ニュース映像を、切り取ってつなげるのを、やめた方がいいと思う。伝わらなかったりするのです。
- メディアは、信用出来ない。
- メディアだけが悪いのではない。
- 正しい性教育又は、性病について教育。
- 本質を突いて、子どもに説明できる大人が少なくなっていると思います。大人の教育が必要です。
- 表現が偏っていると思う。他にも事例があると思うが、メディアでの表現だけが性表現、暴力表現だと認識してしまう。
- 誰でも利用するコンビニに、成人向けの性風俗誌が置いてあるのが全く理解出来ない。子供、女性も目にするだろうし、非常に不快である。
- 表現の自由はあるのかもしれないが、AVやマンガの世界が、現実と区別できない人達にとっては、助長させてしまうと思う。

メディアにおける性表現、暴力表現について 【女性、年代別】



メディアにおける性表現、暴力表現について 【男性、年代別】

